

指導員勤務で感じたこと

山岡和馬*

m8622046@edu.kit.ac.jp

私は2018年度の春から情報科学センターの指導員勤務をさせていただいております。指導員の主な勤務内容は、演習室のPCやプリンターの使い方の質問をされた際にお教えしたり、情報系の講義等の課題の質問について、指導員の答えられる範囲内(直接解答をお教えするのではなく、解答を導くための考え方など)でお答えしたりしています。中には留学生の方もいらっしゃる、英語交じりの日本語で質問されるということもありました。私はその時日本語で返答しましたが、外国の方に、伝えたいことを100%日本語で伝えるのはとても難しいことだと実感しました。

本学はスーパーグローバル大学と銘打っており、専門的な知識の勉強以外に英語にも力を入れていて、学部生の中に英語のテスト等を受ける機会も何度かありました。しかし、本気で英語を身に付けようと努力しないと、日常的に使えるようになるのはとても難しいと思いました。私は、指導員勤務をするまで、学校生活で英語を使う機会がほぼなく、英語の勉強も、1回生の時の必修講義と大学院入試の時にやっていた程度なので、得意ではありませんでした。ですが、指導員勤務で外国の方とやり取りをして、少なくとも会話できる程度の英語力は必要だなと感じました。

それ以来、私は日常生活や身の回りにある英語にもっと目を向けるよう意識しています。外国の観光客の人たちが会話している内容を注意して聞いてみたり、英語の学術論文やWebサイトを翻訳しながら読んでみたりすることで、少しずつでも英語に慣れていこうと思いました。実際に英語で会話することはあまりないので、どの程度話せるように、また聞き取れるよう

になっているのかはなかなか実感できませんが、指導員勤務中の留学生の方からの質問等はこれからもあると思うので、その際には以前より伝えたいことが伝わるようになっていくことを期待します。

また、話し英語、つまりスピーキングとリスニングを身に付けることはこれからの研究活動にも非常に役に立つと思います。研究を進めていくと必ず研究内容を発表することがあります。それは学会であったり、論文の発表会であったりしますが、なかには海外での学会や、外国の方に対しての説明など、英語を使うのが一般的な環境での発表もあるかと思われます。そういった場で、自分の研究の詳細な説明や、相手の質問に対する的確な返答をする時に、たとえつたない英語でも話すことができれば、伝えたいことがしっかり伝わるのではないかと思います。

指導員勤務がこうした英語を見直す機会になって、この仕事に就かせていただいてよかったなと思いました。これからも、英語力をもっと身に付けるべく英語に対する意識を高めていきたいと思っています。最後になりますが私たち指導員は、演習室にいる間、いつでもCISの演習室を利用されている皆様の質問を受け付けております。私たちの答えられる範囲でなら、なんでも返答しますので、わからないことや質問等があれば気兼ねなく声をおかけください。